

# 毎日農業記録賞 千葉支局長賞

奥野 駿志（本校教諭）・豊島 直将（2年生産ビジネス科）師弟で受賞

農業や環境への思いをつづった第43回毎日農業記録賞（毎日新聞社主催、農林水産省・県・県教委など後援、JA全中など協賛）の受賞作が4日発表された。県内からは、一般部門・優良賞に野田市の吉野広道さん



（42）、高校生部門・優良賞に県立鶴舞桜が丘高2年で市原市在住の渡辺恭匡さん（16）が選ばれ、中央入賞を果たした。また、一般部門で3人、高校生部門で1人が地区入賞の毎日新聞千葉支局賞に輝いた。

## 毎日農業記録賞 県内から6人受賞

一般部門・千葉支局長賞

### 命の意味を考える

千葉黎明高教諭 奥野駿志さん（27）

お手本になろうと、生徒と共に応募した作品での受賞。「モット一である『師弟同行』を示せて良かった」と、顔をほころばせる。

農業とは無縁だった



が、動物園勤務の父親の影響を受け、畜産を学ぶために北海道の酪農学園大へ。授業で「経済動物は採算に合わなければ淘汰する覚悟を持て」と教えられ、意識を揺さぶられた。

【渡辺暢】

家畜との距離の取り方を探る中で実感したのが「命のありがたみ」。それを生徒たちにも考えてもらおうと始めた授業が地鶏「房総地どり」の飼育だ。

受け持つ生産ビジネス科には農家生まれでない生徒も多く、自ら育てた鶏の解体にショックを受ける生徒も多い。かつての自分を重ね合わせながら、声をかける日々だ。「常に試行錯誤だが、命の意味を考えてもらうことの思いは強い。」

高校生部門・千葉支局長賞

### 農作業の感動伝える

千葉黎明高2年 豊島直将さん（17）

「基本から教えてもらつたからこそその受賞。率直にうれしい」と喜びをかみしめる。

高校で生産ビジネス科に進んだのは「実習が多くて楽しそう」と



いう軽い気持ちからだった。しかし、1年の夏に自分で育てたキュウウリのおいしさに感動、農業の面白さや重みを実感した。

「もっと農業を研究したい」。同年の冬に

改めて実感しているのが、生産者と消費者の意識の違い。野菜販売実習で「見た目が良くないからいいらない」と言われた。「野菜が単なるモノと扱われていた。研究を続けながら農業で得た感動を伝えたい」【渡辺暢】